

初めてのハワイ

夫婦して元気なうちにハワイ旅行しようとして二人して話し合っていた。

ツアーで行くので、足腰が丈夫でなければ楽しい旅行は出来ない。私も妻も比較的丈夫だ。中国旅行の時も随分歩く場所が多かったが、二人ともヘコタレなかった。

今度は東京の菊地夫妻が同行する事になった。妹、とくちゃんも東京でスケジュールから申し込み等一切やってくれた。おかげで私達年寄りには安心して旅行が出来る。事実若くて記憶のよいとくちゃんにはいろいろ大変お世話になった。

平成十三年一月二十六日、私達は新幹線に乗り、上野で乗換え、成田で落ち合った。PM九時四十五分成田発ホノルル行きで飛び立った。ハワイでの時差は八時間で一日遅れである。中国旅行のときは三時間もからなかったが、ホノルル迄は八時間以上かかる。午前中に到着、午後からツアーの始まりだ。

レストランで昼食後、ホノルル市内観光に出発。ツアーと云っても、もう一組の夫婦だけ、運転手さんを入れても、七人乗りマイクロバスでゆったりだ。洋一から借りたデジカメと、三十五ミリカメラでモデルさんが一人も居るので、思い出を多く残したいと思い、多く撮った。海の見える高台。カメハメハ大王像。イオラニ宮殿など見物後、ミラマーアットワイキキホテルに着いた。

五時に集合してショウレストランに行き、夕食しながらのお楽しみだったがホテルを出て集合場所を私が間違ひ、ホノルルの町を徘徊し約三十分遅れた。なかの云う通りに行けばよかったのに。

とくちゃん達は心配して待っていてくれた。よその団体と一緒にしたが、バスは行ってしまった後で、タクシーを拾いショウ会場に着いた。ショウはまだ始まって居なかった。席も確保してくれてあった。アロハディナーショーと云



うのだそつだ。遅刻した事も忘れ、楽しくホノルルの夜を、ショーを見ながら過ごし、ホテルに帰った。

ホテルは二人ずつ一部屋で、ハワイ旅行の第一夜が始まった。高層の窓から見るホノルルの夜景はロマンチックで幻想的だ。ハワイも一月は一番寒い季節だが、それでも気温は二十度以上ある。弱くエアコンを使い眠った。

現地時間一月二十七日午前八時、ホテルを出て集合、別のツアー組と大型バスに乗り、終日オアフ島一周観光に出発した。ダイヤモンドヘッド、ハナウマ湾、潮吹き穴、ライオン岩等を周った。昼食後、レイ作りを体験。曙力士像前で、代わるがわる写真を撮り、パイナップル畑などを見物、ホテルに帰った。夕食は日本人が経営する「田中オフ東京」で、日本人の店員が作ってくれる和風鉄板焼きを賞味した。

翌二十八日は自由行動であるが、私達はオプショナルツアーを申し込んであるので、バスで出掛けた。港で観光船に乗り、一キロ位沖に出、潜水艦アトラクションに乗り移り、海底探検。群れをなして泳ぐ魚類。沈没している船等、ゆつくりと神秘的な世界を満喫した。

約三時間で帰り、ホノルルの繁華街に出てショッピングを楽しんだ。定期バスに乗って行ったが、屋根だけでガラスが無い、雨が降ったらどつするのと、聞いたら、フラインドを下すだけだそつだ。パトカーも軽三輪車である。日本の様な立派なパトカーにはお目にかからなかった。それに何処に行ってもゴミが落ちてない、日本では見られないと、二人して語り合った。

ワイキキ海岸を散策。集合場所よりバスに乗り、ホノルル港に停泊している豪華客船、スター・オブ・クルーズ号に乗船。船上に用意したテーブルを囲み、二百人以上の観光客と共に、有り余るご馳走と酒類を前に、フラダンス等のショーを観劇した。その時眺めた、今まさに、ワイキキの海に夕日が水平線をクレナイに染め沈む光景や、ホノルルの高層ビル群の明りは、何にも代え難い口マンズの思い出である。

ハワイ旅行最後の夜もグッスリ眠れた。二十九日十一時三十分ホノルル発日航機で帰国の途につき、無事成田空港に日本時間三十日十五時三十分着いた。

今度はハワイ島巡りがいいと二人で話しているが、もし体が丈夫だったら是非行きたいと思っている。